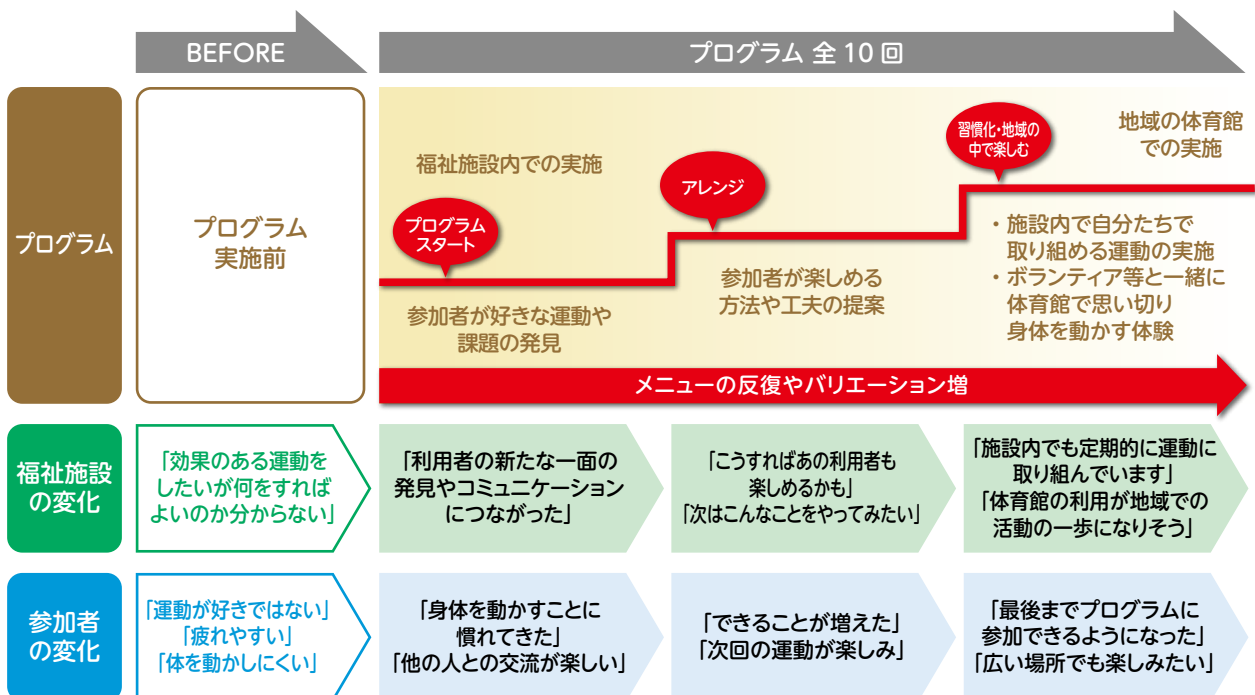


- **目指す姿**：障害のある方が施設内で、日常的に運動を楽しむようになること  
障害のある方が体育館を余暇活動の場の一つとして捉えられるようになるとともに、地域において、体育館やボランティア等の協力を通じ、スポーツ活動の機会が広がること
- **対象施設**：児童発達支援、放課後等デイサービス、就労継続支援 B 型、生活介護の福祉サービス事業所(12 施設)
- **実施方法**：障害のある方への運動・スポーツ指導経験が豊富な指導者を施設等に派遣プログラムの実施や移動にあたっては、施設職員に見守り・サポート等を依頼



### 実際のプログラムの流れ：運動を楽しめるようになるまでのステップ

- 本事業では、概ね以下の流れにより1施設あたり年間10回程度のプログラムを行いました。
- 今年度は主に施設内で日常的に運動を楽しむようになることを目指しつつ、身近な体育館などでの運動も実施し、地域におけるスポーツ活動にも参加できるよう取り組みました。
- プログラムの実施に先立ちヒアリングを行ったほか、参加者の反応やプログラムに参加した施設職員の意見も参考に、無理なく楽しんでいただけるメニューを提案しました。



次頁以降の事例紹介では、施設内の日頃の活動の中で取り入れやすく、参加者に楽しんでいただけるメニューを中心に紹介しています。活動の際の参考としていただければ幸いです。(運動を実施する際は利用者の状況にあわせた安全及び体調管理をお願いします。)